

相談支援つうしん

<第74号>2021年7月15日
県立湘南養護学校 支援連携部
相談支援係 ~教師編~

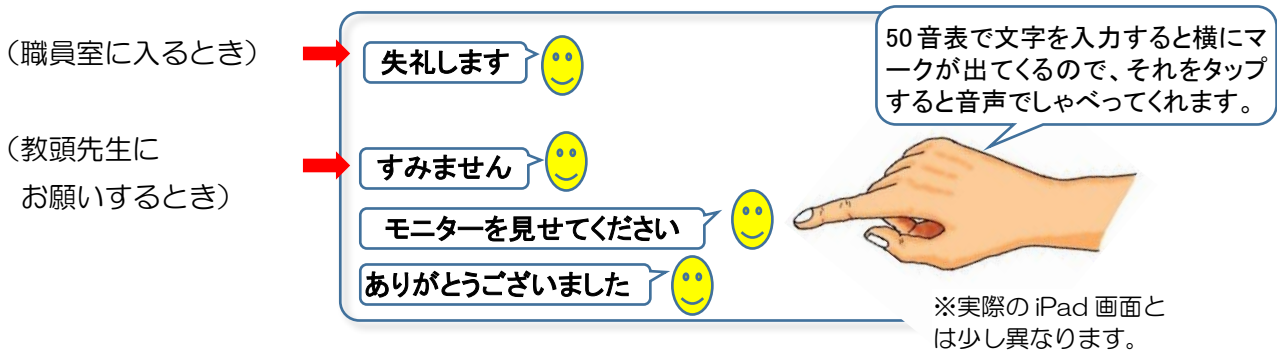
～社会的妥当性を考えて支援を行う～

中学部のある生徒が、昼休みに毎日職員室に担任の先生と iPad を借りに来るのを見ていて、とある研究会での実践報告を思い出しました。それは、特別支援学校の高等部の生徒（A さんとします）が、毎日昼休みに職員室に何も言わずに入ってきて、防犯カメラのモニターを見ていたことに対する支援についての内容です。

A さんは知的障害と自閉症を併せ持つ生徒で、音声言語はなく、ひらがなで日常的によく使う言葉を読んだり書いたりすることができます。そこで、A さんが許可を取ってから職員室に入りモニターを見せてもらうための手立てを考えることになり、A さんにいつも対応してくださっていた教頭先生にどのように話しかけられると分かりやすいかセリフを提案していただきました。

そして、A さんは iPad アプリの“しゃべって”を活用して、セリフを入力して登録し、職員室に来たらタップして音声出力することになりました。このアプリは、手書きで入力することもできますが、A さんの実態を考慮して、50 音表を使って入力することになりました。

昼休みになると、教室の iPad を先生から借りてセリフを入力し登録します。そして、職員室に着くと入り口で「失礼します」と発信して自分の存在を知らせ、そこから許可を得るやり取りをするようになりました。A さんがこのアプリを使うことになった理由の 1 つに、職員室のような場所だとノックでは気づいてもらいにくいので、離れている相手の注意を引けるようになってほしいという事情がありました。



この取り組みをすることによって、職員室に入室するマナーを守って目的を叶えることができるようになりました。しかし、ここで教頭先生からふと次のような言葉がありました。



最初、この言葉を聞いたとき、支援を行った先生は言葉が出なかったそうです。そこまで考えていなかったのです。勝手に職員室に入って好きなことをしていたのを、せめて許可を得てから行えるようにと思って行った支援だったのですが、教頭先生から次のように教わったそうです。

支援をするときには、教育的効果として、児童生徒の QOL(生活の質)が向上するかどうかを考えてくださいね。どんなに苦勞して身につけたスキルだとしても、職員室内のモニターを毎日見ることになると、それに対応する人も必要ですし、卒業後の豊かな生活につながるかどうか見直してみてください。



そこで、改めて担任の先生方は A さんへの支援の教育的効果について関係の先生方と考えてみたそうです。その結果、確かに職員室内のモニターを覗くという行為は、それを行う必然性が薄いことと、必ず誰かが対応しないとイケないので、より他者を巻き込まないようにしたほうが卒業後も穏やかに過ごせるようになると考え、A さんのこだわり行動への対応を見直すことにしました。

✦ 自閉症スペクトラムのこだわりは放っておくと拡大する

自閉症スペクトラムのこだわりは、一度始めたらやめない、新しいことはやりたがらない、決めたことは変えない、という3つの特徴があるそうです。人によって出方や対象はさまざまですが、そのままにしておくと、**範囲が広がり**、**他者を巻きこみ**、**強度が上がります**。これはときにとっても大変な事態を引き起こしてしまいます。中には、子どもが家庭で王様として君臨し、家族全体の生活が細かく管理されるような状態になってしまうことすらあります。

そこで、A さんのこだわりもできるだけ自己完結してもらおうことを目指して、教室の自席でモニターを見られるようにしました。とはいっても、教室までモニターを引っ張ってくることはできないので、校庭の様子を防犯カメラのように 30 分間録画し、その映像を自席で観ることにしました。A さんが休み時間に観るのはせいぜい 10 分程度でしたので、休み時間になると、「しゃべって」アプリに「**せんせい あいぱっどでもにたーをみてもいいですか?**」と入力して許可を取るようにしました。この取り組みをすることによって、他人を巻き込まず休み時間を有意義に過ごせるようになったそうです。

社会的妥当性を考える

社会的妥当性とは、支援として取り組んだ課題とその成果がどれだけ社会的に重要だったかを評価することを言うそうです。自分ではよかれと思って支援を考えたとしても、それを周りが評価しているか確認することが求められます。最近読んだ実践報告で、社会的妥当性の手続きをきちんと踏んでいることを記載していた論文を目にして、「おお！こんなことも記載するようになったのか。」と思っていたところ、今回のような事例に出会いました。独りよがりな支援にならないために、関係者の意見を聞くことの大切さを改めて実感しました。

一方で、「しゃべって」アプリは文字の手入力や 50 音表タップで入力ができたりする大変有用なツールです。右図は手入力の場面です。入力したセリフを登録しておけば、好きな時に呼び出せますので、いちいち入力しなおす必要もありません。音声の出力は音量調整はもちろんのこと、声の高さやスピードも細かく調整できます。

高等部では、集会で発表する場面で活用することもあります。自分の「言葉」で伝えるツールの幅がますます広がっていますので、ぜひ活用してみてください。

漢字の入力も

驚くほど確実に
判別します。



文字を指で書いて下のマークをタップするとしゃべってくれます。

<参考文献>

白石雅一 自閉症スペクトラムとこだわり行動への対処法 2013 東京書籍

島宗理 応用行動分析学 ヒューマンサービスを改善する行動科学 2019 新曜社

宮木秀雄 他 「小学校通常学級における児童の給食準備行動への非依存型集団随伴性の適用」2021 行動分析学研究 35 (2)